

資料（目次）

（設置の趣旨等を記載した書類）

資料 1	新学部の全体像	1
資料 2	大学改革の全体像	3
資料 3	新学部設置と大学改革	5
資料 4	とちぎづくり戦略	11
資料 5	ネットワーク型コンパクトシティ	13
資料 6	要望書【栃木県，宇都宮市】	15
資料 7	設置の背景と意義	17
資料 8	新学部の基本理念，育成する人材像と養成する能力 【学部のディプロマポリシー】	19
資料 9	育成する人材像と養成する能力 【学科のディプロマポリシー】	21
資料10	要望書等【栃木県市長会，栃木県町村会】	23
資料11	新学部の特色	27
資料12	教育課程編成の基本的な考え方及び特色	29
資料13	教育課程の編成（科目区分と目的）	31
資料14	履修表【コミュニティデザイン学科， 建築都市デザイン学科，社会基盤デザイン学科】	33
資料15	文理融合した教育プログラム	37
資料16	学部共通で「地域対応力」を養成	39
資料17	専門科目のアクティブ・ラーニング化（100%）と全学への波及	41
資料18	担当予定授業科目	43
資料19	地域連携，学科混成による「地域プロジェクト演習」の必修化	45
資料20	「地域プロジェクト演習」の概要	47
資料21	養成する能力と授業科目：学科別	49
資料22	基盤教育の理念と達成目標標準	51

資料23	基盤教育科目履修表	53
資料24	平成26年度テーマ別教養科目リスト	55
資料25	地域デザイン科学部 専門科目表	57
資料26	地域デザイン科学部専任教員（分野別）一覧	59
資料27	地域デザインセンター（CDC）の機能と役割	61
資料28	地域デザインセンター（CDC）の組織図	63
資料29	学士課程教育体系の見える化と質保証	65
＜コミュニティデザイン学科＞		
資料30	教育の三方針	67
資料31	カリキュラムツリー	69
資料32	学修・教育の達成目標確認マトリックス	71
資料33	宇都宮大学シラバス掲載例	73
＜建築都市デザイン学科＞		
資料34	教育の三方針	75
資料35	カリキュラムツリー	77
資料36	学修・教育の達成目標確認マトリックス	79
資料37	宇都宮大学シラバス掲載例	81
＜社会基盤デザイン学科＞		
資料38	教育の三方針	83
資料39	カリキュラムツリー	85
資料40	学修・教育の達成目標確認マトリックス	87
資料41	宇都宮大学シラバス掲載例	89
資料42	既存施設の利用計画	
	【建築都市デザイン学科・社会基盤デザイン学科】	91
資料43	新校舎の整備計画	93
資料44	時間割表【設立時】	95
資料45	時間割表【完成時】	101
資料46	社会教育主事履修表	107

資料47	高等学校教諭一種免許状（公民）履修表	109
資料48	一級（二級）建築士試験の受験資格要件	111
資料49	教育実習承諾書	113

＜建築都市デザイン学科＞

資料50	既修得単位の読替表	115
資料51	第3年次編入学履修モデル	117

＜社会基盤デザイン学科＞

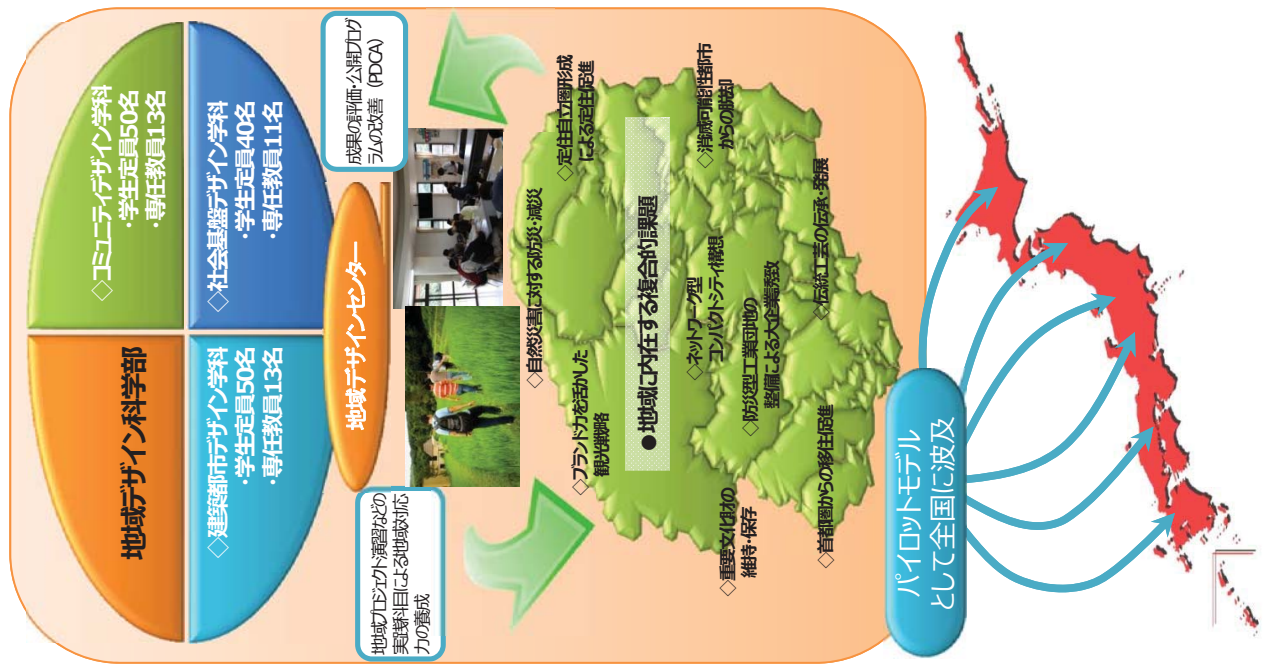
資料52	既修得単位の読替表	119
資料53	第3年次編入学履修モデル	121

資料54	地域デザイン・ネットワーク会議	123
資料55	キャリア教育と就職支援の概要	125
資料56	キャリア教育シラバス掲載例	127
資料57	学生支援プロジェクト	129
資料58	宇都宮大学キャリア教育・就職支援センター規程	131

資料 1 新学部の全体像

地域デザイン科学部 - 文理融合により 地域の強みを活かしたまちづくりを支える人づくり-

<p>理念</p> <p>地域の持続的な発展に関する教育・研究・地域貢献を推進することによって、豊かな生活の実現に貢献する</p>	<p>設置の必要性</p> <p>○<u>地域の変容と新しい課題</u> ◇広域化や少子高齢化などに対応した社会制度、まちづくり、防災・減災など、複合化した地域課題に対応できる人材が求められている ◇今後のまちづくりでは、ハードとソフトのつながり（地域に適合した最適な組み合わせ）をどのように構築するかが求められている ○<u>地域社会からの強い要望</u> ◇総合的な観点からまちづくりを進める必要性が高まっており、それらを支える知識・スキルを備えた専門職業人が求められている</p>	<p>設置の優位性</p> <p>○<u>立地特性</u> 栃木県は、全国有数の農業地域（酪農、穀類、施設栽培等）、日本を代表する内陸型工業地帯、北関東最大の中核市、首都圏のベッドタウン地域、日光等日本有数の観光地域、限界集落を含む中山間地域などを有し、多様性に富んだ全国の縮図としての性格を有する ○<u>地域課題への取組実績</u> ・超高齢社会を支える人材育成事業の実施（大学COC事業）、地方自治体からの要請に応じたまちづくりに関する様々な検討や提言を実施 ○<u>アクティブ・ラーニング教育の実績</u> ・アクティブ・ラーニング型授業の積極的導入、ラーニングコモンズの整備、カリキュラムマップの作成など「教育の質保証」に関する取組が高評価→「大学教育加速プログラム（A P）」の採択</p>	<p>教育の特色</p> <p>(1) <u>理系を中心に文理融合した地域系の教育実践</u> 理系スキルを身につけたコミュニティデザインの専門職業人、社会科学の素養を身につけた建築都市デザインや社会基盤デザインの技術者を養成 (2) <u>学部共通で「地域対応力」を養成</u> 学部で共通する能力として“地域と向き合う力”、“地域の実態を調査し分析する力”、“地域の課題を解決する力”を養成 (3) <u>専門科目のアクティブ・ラーニング化（100%）と全学への波及</u> 専門科目を全てアクティブ・ラーニング科目として実施→第3期目標・計画期間中に全学の全ての科目をアクティブ・ラーニング科目化（A Pプログラム）の拡充 (4) <u>地域連携、学科混成による「地域プロジェクト演習」の必修化</u> 地方自治体、民間企業等と連携し、3 学科混成学生グループ（5 名）によるフィールドにおける専門分野からの調査・分析、それらの議論と実践的な協働</p>	<p>育成人材</p> <p>○<u>地域の課題を理解し、各地域の強み（地域資源・地域特性）を活かしたまちづくりを支える専門職業人</u> ・<u>コミュニティデザイン学科</u>：地域社会を構成する社会集団や制度などをデザインする人材 ・<u>建築都市デザイン学科</u>：実践的な建築技術を基礎として居住空間をデザインできる人材 ・<u>社会基盤デザイン学科</u>：実践的な建設技術を基礎として社会基盤をデザインできる人材</p>
---	--	---	--	--

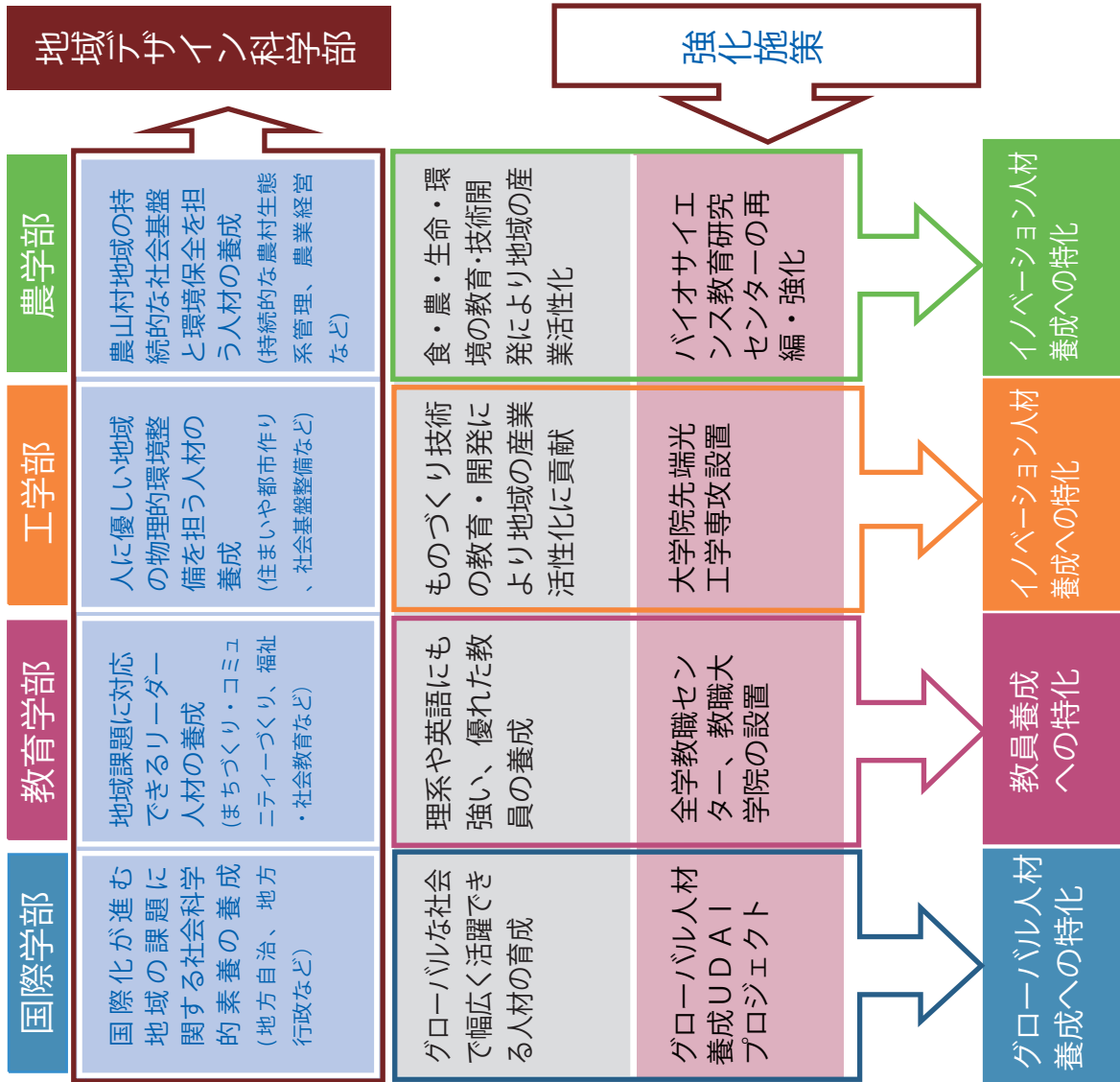


新学部の全体像

資料 2 大学改革の全体像

改革の方向：“グローバル”、“イノベーション”、“地域”に関する機能強化
 新学部「地域デザイン科学部」の設置と「地域活性化の中核的拠点」

大学改革の全体像



地域デザイン科学部

強化施策

改革の骨格

全学的な組織改革

- ・教育組織と教員所属組織の分離とその実質化
- ・地域活性化をリードする新学部

全学的な教育改革

- ・アクティブ・ラーニングによる行動的知性の養成
- ・ジェネリックスキル・コンピテンシーの養成
- ・英語教育改革の持続的發展

ガバナンス機能の強化

- ・教授会の役割の見直し
- ・教員人事の学長マネジメント
- ・外国人教員の強化と年俸制導入

地域連携の強化

- ・地域連携教育研究センターとCOC円卓会議の設置
- ・社会人学び直し機会の推進
- ・実務家教員の多用

資料 3 新学部設置と大学改革

～グローバル化・イノベーション・地域を3つの重点的なキーワードとして、
社会的課題解決に貢献できる人材の育成に強化～

コミュニティデザイン学科
地域社会を構成する社会集団や制度等をデザインする人材育成

地域デザイン科学部

地域創生力

建築都市デザイン学科
実践的な建築技術を基礎として居住空間をデザインできる人材育成

社会基盤デザイン学科
実践的な建設技術を基礎として社会基盤をデザインできる人材育成

新学部設置と大学改革

国際学部 定員：100名→90名
グローバルに活躍できる人材の育成

学際的総合教育の強化・実質化のため、柔軟な組織へ
2学科を1学科に改編 (H29)

教育学部 定員：210名→170名
確かな授業力・人間力のある教員への育成

専門性の壁を超えた人間関係の構築のため
コース・専攻の廃止(H28)

工学部 定員：385名→315名
新時代のもつくりイノベーションを起爆する創造性と活力をもった人材育成

オプティクス分野を特色とした産業界に貢献等
光学系学科の新設、既存学部の改編等 (H29)

農学部 定員：215名→195名
宇大版農学的リテラシーを備えた人材の育成

共同利用拠点を基盤とした、農・食育教育プログラムの充実
国際学部と連携し、海外における実践的な学習プログラムの実施

① 背景

グローバル化の進展
 ・地域資源の世界展開
 ・日本国内への人的資源移動

社会的要請
 ・「グローバル人材育成推進会議」
 ・とちぎグローバル人材育成プログラム

ビジネスにも必要とされる異文化理解
 ・複眼的視点の重要性
 ・複合的方法論の重要性

② 社会的ニーズ

ミッション再定義と育成する人材像

● ミッション再定義
 特に外国語教育や国際キャリア教育の充実を図る等、卒業時に必要とされる資質や語学力などの能力を可視化しつつ、体系的な教育課程を編成するとともに、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等により、国際社会及び地域社会の多文化共生に関する学際的研 究を一層推進し進めることを通じて、学士課程教育の質的転換に取り組む。

● 育成する人材像
 異文化に対する豊かな共感力とグローバルコンピテンシー(Global Competency)を身につけた人材

高校生の「国際」への高い関心

● 入試志願状況
 過去10年間の志願倍率は常に3倍以上

● 高校生の高い関心
 4割以上の文科系学生が国際学部への関心を示す(栃木県内3校の高等学校生徒381名へのアンケート調査)、6割以上が国際関係の学部への関心を示す(関東東北6校生徒199名への出張講義における調査)

③ 機能強化

組織改革
 学部改組(現行2学科の1学科統合による学際的総合教育研究の強化)

カリキュラムの充実・強化
 基礎から専門へのカリキュラムの体系化と学士力の保証

入試改革
 外国人生徒枠新設(「グローバル人材」育成のための多様な学生の受け入れ促進)

国際学とは

相互理解と共生の観点を踏まえた、脱国境化・グローバル化した複雑な人間社会の課題に対して、それが生じている様々なレベルの「地域」の特徴を理解しつつ、適切な「言語」を用いて、複数の「学問的方法論」を連携・駆使して、学際的に研究・教育するための概念である。

④ 学科の改編

国際社会科学
 社会科学の学際総合的教育研究

国際文化学科
 人文科学の学際総合的教育研究

【主な変更点】
 ・2学科⇒1学科
 教育研究組織を総合的かつ柔軟な組織とし、学際総合性を標榜する。教育課程の編成を明確にする。
 ・入学定員のスリム化と多様化
 定員：100⇒90名、外国人生徒特別枠の新設(平成28年度)

国際学科(仮称)
 人文科学と社会科学の枠を越えた学際総合的教育研究
 (平成29年度改組)

⑤ 身につける能力

グローバルコンピテンシー
 (公益性・自律性・多様性・倫理性)

① 複教言語運用能力
 ② 価値選択・目標設定能力
 ③ 国際キャリア開発能力
 ④ 地域理解能力

⑦ 進路

● 地域・職場のグローバル化に
 かかわる諸課題の解決に積極的に貢献できる人材。
 [例]
 外国人が集住する地域での自治体職員、ソーシャルワーカー、メーカーや小売、サービス業、様々な企業の国際取引交渉関係部署等

● 国内外のグローバルな諸問題に対応できる人材。
 [例]
 アジア等の海外へ進出する企業従業員、国際NGO職員、政府・公共機関等

● 異文化理解・異文化交流や言語教育に寄与できる人材。
 [例]
 日本語や外国語の知識と運用能力を生かす、メディア、観光・旅行業、流通関係、外資系企業、教育関係等

⑤ カリキュラムの強化・充実

基礎から専門への体系的カリキュラム(平成29年度)
 「基礎科目」「選択科目」「グローバルコンピテンシー実践科目」「グローバル強化プログラム」

外国語能力強化プログラム(英語と現地語としての初習外国語)(平成28年度)
 英語：900時間+TOEFL/TOEIC/検定試験、第二外国語：○○時間+検定試験

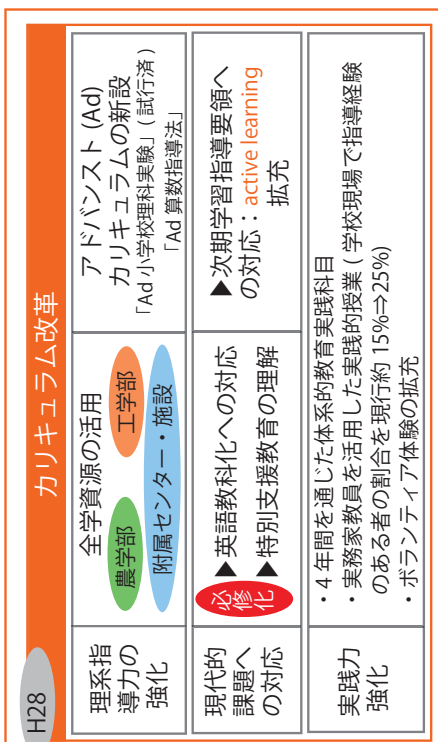
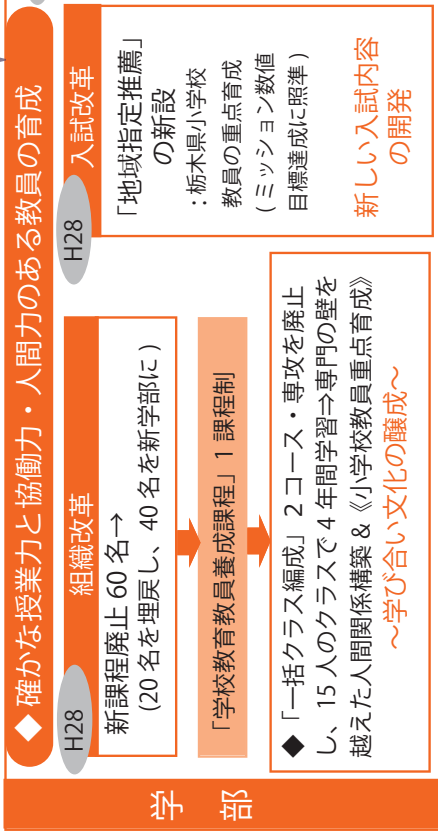
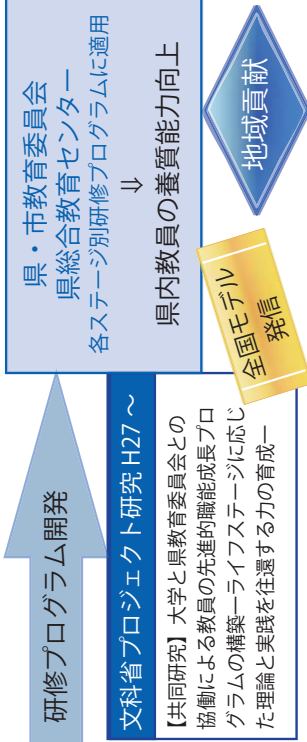
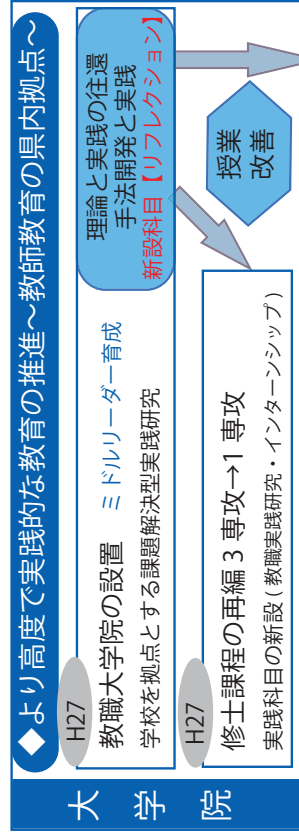
国際開発キャリア開発強化プログラム(平成28年度)
 「ものづくり」や「農業・食・環境」等に関する文理融合型教育の推進(平成29年度)

国際学部の機能強化

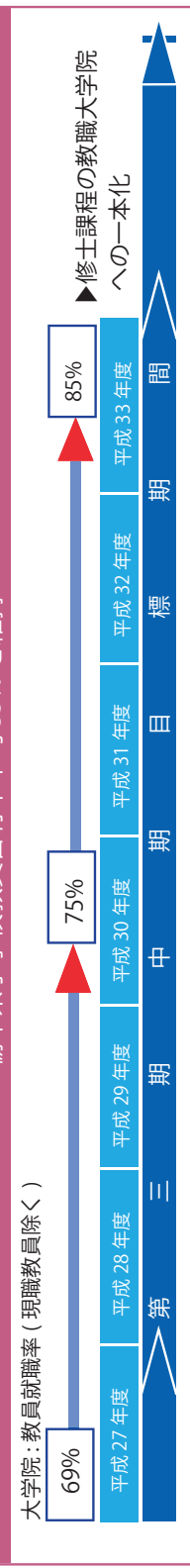
教育学部の機能強化

- ・高い教員就職率（全国5位）
- ・地域連携の実績
- ・現場のニーズに応える質の高い教員養成

- ・「ミッションの再定義」の数値目標達成
（栃木県小学校教員占有率 35% 大学院教員就職率 85%）
- ・質の高い教員の輩出と地域連携活動・研究の充実強化による一層の地域貢献



栃木県小学校教員占有率平均 35% を維持



工学部・工学研究科の機能強化

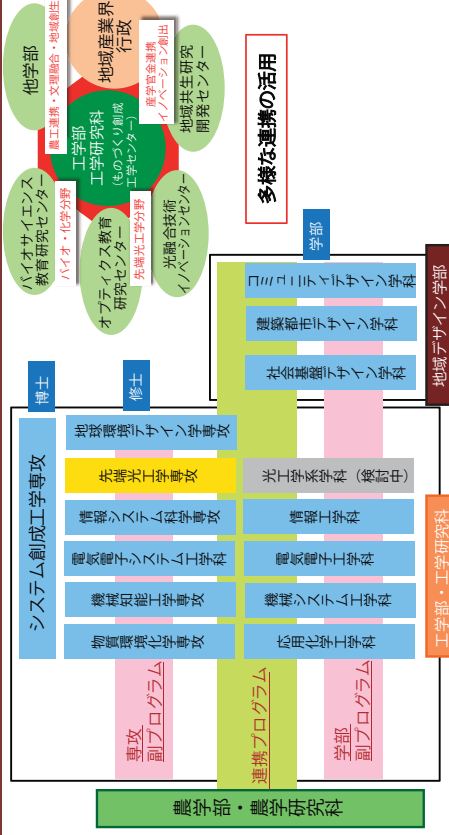
機能強化

1. 機能的組織への改変と多様な連携の活用
 - ・スケールメリットを活かした学部及び学科の改組
 - ・学部・学科を超えた教育プログラム
2. ミッションの再定義(本学の強みの強化・推進)

目標

- ・新時代のものづくりイノベーションを起爆する創造性と活力をもった人材を育成
- ・地域産業界のイノベーションに寄与する研究
- ・「社会人の学び直し」への質の高い貢献

1. 機能的組織への改変と多様な連携の活用



機能的組織への改変(全学的な改組)

- ・先端光工学専攻の設置(H27.4.1)
- ・光学系学科の新設など学部改組(H29.4.1)計画中
- ・建設学科を地域デザイン科学部へ移動(H28.4.1)計画中
- ・グループ研究の推進体制(連携)を整備

オペティクス分野を強化し、地域産業界のイノベーションに貢献する工学部・工学研究科へ発展

- ・学部副プログラム：学部を超えた学科横断的科目群
- ・専攻副プログラム：専攻横断的科目群
- ・連携プログラム：学部を超えた科目群
- ・産業界と連携した実践的教育

教育における、質保証と効率化を実現

2. ミッションの再定義の強化・推進

1. オプティクスの強化(我が国唯一・世界水準の光工学教育研究)
2. 工農連携の推進
3. 感性情報学の推進
4. ものづくりセンターによる「ものづくり教育」の改善
5. 地域貢献(トップレベルの産官連携ネットワークの活用)

各項目のロードマップ	H27 >> H28 >> H29 >> H30 >> H31 >> H32 >> H33
学部改組	<ul style="list-style-type: none"> ・学科改組の検討(H27～) ・光工学系学科設置等改組(H29)
大学院改組	<ul style="list-style-type: none"> ・後期課程定員見直し(H27～) ・後期課程定員の改定(H29)
教育体制	<ul style="list-style-type: none"> ・副プログラム(H27～) ・連携プログラム(H29～)
グローバル教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり教育国際ネットワークの構築(H27～) ・ダブルディグリーの推進(H27～)・留学支援の構築(H29～)
オペティクスの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・先端光工学専攻の教育体制を整備・改善(H27～) ・オペティクス教育研究センターとの連携を強化(H27～)
工農連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・推進室の設置(H27) ・連携プログラムの実施(H29～)
感性情報学の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・情報工学科・専攻の共通研究テーマ化(H27) ・学科・学部を超えた研究プロジェクトの推進(H27～)
ものづくり教育の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の評価(H27) ・ものづくり教育による創造性育成の改善(H28～)
地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・大型外部資金の獲得により地域イノベーションを積極展開し、新たな価値の創出を通して地域産業界へ貢献 ・地域ニーズに沿った改善を行いつつ、MOT関連公開講座を継続

農学部・農学研究科の機能強化

